

【第1分科会 小学校】

「学びを深める図書館活用のあり方～児童の『見たい・知りたい・学びたい』を深める～」

福山市立水呑小学校

I はじめに

本校では、管理職、司書教諭、教務主任、学校図書館補助員からなる学校図書館運営委員会を中心に、図書委員会などの児童会活動と連動しながら図書館運営を進めている。しかし、その利活用においては、利用児童の固定化、高学年児童の読書に対する興味の低下等の課題が見られる。令和7年度全国学力学習状況調査児童質問紙の結果においても、「学校の授業以外で読書をしますか。…国比－12.5% 読書は好きですか。…国比－20.7%」となっている。また、調べ学習においても、ICTや図書資料からのコピーペーストに終始している児童が多く、必要な情報を正しく選択し、学びを深めることにはいたっていない。

そこで、①図書資料やICT端末による調べ学習の基本的な技能を身に付けさせる、②より深い調べ学習への必然性を持たせる単元づくりを行う、③個の調べ学習を協働的な学習に広げること、児童の図書館活用を活性化させつつ、学びを深めることができるのではないかと考えた。

II 取組の概要

(1) 学校図書館補助員と連携した調べ学習の基本的な技能習得のための指導

- ・日本十進分類法の指導（3学年以上）
- ・百科事典を活用した調べ学習の進め方の指導（4学年国語）
- ・公共図書館の使い方についての指導及び図書資料やICT端末等による調べ学習におけるメリットとデメリットと著作権についての指導（5・6学年国語・社会）

(2) 深まりのある調べ学習へ導く単元づくり

- ・市図書館の学校貸し出しを活用し、社会科の学習ともつなげた、修学旅行（京都班別自主研修）の事前学習
- ・単元を貫く問いの設定と調べたことを根拠に行う討論活動を位置付けた社会科単元づくり

(3) 個の調べ学習を協働的な学習へとつなげるための取組

- ・図書検索ツール『カーリル』や『芋づるマップ 水呑小 Ver.』（参考：岩波書店「芋づる式読書マップ」）を活用し、個の学びを思考・表現ツールを使って集団の学びにつなげる活動

III 協議したい内容

- ・児童の主体的な探究学習を進めるための、ICT端末と併用した学校図書館資料の活用について
- ・図書資料を活用した調べ学習の充実を、読書習慣の定着につなげる有効な手立てについて

IV 成果・課題

- 「百科事典の使い方」を学んだことで、知りたいことの概要を調べ、その中から疑問に思ったことをさらに調べるという探究的な学習の流れがつかめた。
- 学校図書館をあまり利用していなかったり、図書資料の良さを実感できていなかったりした児童が本に親しんだり、図書資料を活用して学びを深めたりしている姿が見られるようになった。
- 図書館を活用した調べ学習の意欲は高まったが、読書習慣や図書利用の定着は課題が残っている。

V おわりに

今回の取り組みは、図書館の3機能のうち、「学習センター・情報センター」を中心とした取り組みとなった。調べ学習の質的向上は見られたが、本校児童の読書習慣の定着等の課題解決には至っていない。今後は、「読書センター」の機能の充実に向けた取り組みも連動して進めていきたい。